



▲子どもたちの願いが叶いますように

▶暑中お見舞い申し上げます。暑い！とにかく暑いです。「暑いですねえ」が挨拶代わり。小暑から立秋までが暑中とはいえ、この分では残暑も厳しそう。夏が暑いのは当たり前ですが...。空梅雨のまま、夏本番を迎え、農作物への影響が心配です。そんな中、公園で元気に咲いている向日葵(ひまわり)を見つけました。花言葉は「憧れ」。太陽を慕い、東を向いて咲くそうですね。お日さまに向かって背筋をピンと伸ばした黄色い姿に「よし、がんばろう」と勇気をもらいます。

▶とはいえ、近年の夏の暑さは気持ちだけではどうにもなりません。水分補給や、エアコンの活用など熱中症対策をしっかりしましょう。また、今夏も播磨町ではクーリングシェルターを指定しています。外出中に暑さで危険を感じたら、迷わずご利用ください。

▶夏の味覚、マダコが水揚げされています。先日の朝市でも、その大きさに子どもたちが目を丸くしていました。古宮の浜では、足を広げられたタコが暑い夏空を泳いでいます。太陽の恵みをたっぷりと吸収して栄養満点の「干しだこ」ができあがります。これを食べて酷暑を乗り切りましょう！

▶いよいよ始まった夏休み。青い空、白い雲、光る水しぶき！楽しいことがいっぱいですね。今年の夏は何にチャレンジしますか？勉強、スポーツ、遊び、何でもいいので暑さに負けず挑戦してください。ひと夏越えて、大きく成長したみなさんに会えるのを楽しみにしています。

▶梅雨が記録的な早さで明けたおかげで、今年の七夕はいいお天気でした。夏の夜空を彩る天の川と織姫、彦星は見られましたか。笹に飾られた短冊とそこに込められたたくさんの願い。みんな叶うといいですね。私もひととき暑さを忘れ星にそっと祈りました。「まちが笑顔で溢れますように」

▶ここでクイズです！この文章の中に「夏」と「暑」はそれぞれ何回出てきたでしょう？

播磨町長 佐伯 謙作

クイズの回答はQRコードで→

正解者の中から抽選で、播磨町のオリジナルグッズをプレゼントします。



保健師だより おいばんきですか？

屋内でも熱中症に気を付けましょう

☎ 保険課国保年金医療係 ☎079-435-2581

今年度保険課に異動しました、2年目保健師の後藤です。健康教室や出前講座など、いろいろな場所です。町民の皆さまとお話しできたいと思います。

さて、毎日暑い日々が続いていますが、熱中症対策は出来ていますか？総務省消防庁によると、熱中症で救急搬送された方で、最も多い発生場所は自宅です。そのため、外出する時はもちろん、自宅でも熱中症対策を心がけるとがとて大切です。

- ～屋内でも！～
- 熱中症対策チェック
- 喉が渇いていなくてもこまめに水分補給をする
 - エアコンや扇風機を使用する
 - 部屋の温度・湿度・熱中症指数を確認する
 - 規則正しい生活を送り、免疫力を高める
 - 家族や周りの人がお互いに声をかけあう
- ※疾患により医師から水分摂取に関する指示がある場合は、医師の指示に従ってください。



呼びかけに応じなかったり、自力で水分をとれない場合はすぐに救急車を呼びましょう。

播磨町では正しい知識をお伝えするため、健康のための様々なイベントや教室、相談を実施しています。広報にも載せていますので、ぜひご自身の健康づくりにお役立てください。

楽屋裏

「広報写真を撮るときは笑顔が肝心」。4月に先輩から言われた言葉です。取材対象者の笑顔を引き出す秘訣は、まずはこちらが笑うことだそう。

今月の特集「播磨町役場を大解剖」は、大勢の職員の笑顔とともにお届けしています。読者の皆さまにも笑顔で役場を利用していただけたら嬉しいですね。

最後になりましたが、私は4月から広報担当見習いになった藤川と申します。皆さんのたくさんの笑顔にお会いすることを楽しみに、顔面の筋肉を鍛えておきます。どうぞよろしくお願ひします。(藤)

きゅんぱすだより

播磨西こども園

大きい組さんがむいてくれたそら豆
おいしかったね！

暑さを感じられるようになってきた5月の終わりごろ、5歳児の子どもたちが翌日の給食の食材となるそら豆のさやむき体験をしました。

さやを手にした子どもたちは、「ちよつと堅そう」「どこからむけばいいのかな」と興味津々。端から筋を取り、さやを開こうと奮闘します。「ここに爪をぐっと入れたらいいんやー」「力があるけど自分でできそう」「ねえねえ、どうやるか教えて」と自分で上手



▲フワフワのベッドだね



▲今日のそら豆は、特別においしいよ

くむける方法を考えたり、友達とむき方を知らせ合ったりしてさやをむいていきます。

「あつ豆が3つ入ってた！」「中は白くてフワフワしてる」「そら豆くん、フカフカのベッドで寝てたんだね」と感じたことを話しながらさやむきを楽しみました。

翌日の給食に茹でそら豆が出てきて子どもたちも大喜び。大きい組さんがむいてくれたそら豆は特別おいしかったね！

県立大学の学生が転入者とふるさと納税について調べてくれました

2024年から始まった兵庫県立大学学生のフィールドワーク演習。今年も環境人間学部2年生約20人が播磨町の今を調査してくれました。

5月から県立大学のフィールドワークが始まりました。今年のテーマは2つ。ひとつは播磨町で増え続ける転入者がどんなことを考えているか、もうひとつは播磨町のふるさと納税についてどんなのがあるのか。ふるさと納税について調べたグループはふるさと納税に返礼品を掲載している事業者にインタビューに行き、ふるさと納税をきっかけにどんな商品を開発したかなどをヒアリングしていました。転入者について調べたグループは時間と場所を変えながら転入者力フエを開いていました。「播磨町に住んでみてどうですか？」をいろいろな転入者に聞いてみると、「子育てしやすい」と「住みやすい」や「最近新しいお店が増えたり、居場所も増えて色んな人に出



▲学生がいろいろな人にインタビュー

会える」など、学生たちの質問をきっかけに普段は話さない播磨町のことを話す機会になりました。7月11日には、2つのグループごとに成果をまとめた発表会を開催しました。学生の目からみた播磨町はとても魅力あふれるまちに映っていたようで、こうした外からの目があることでまちの魅力を再認識する機会になりました。来年度以降も学生たちがまちなかをフィールドワークしてくれるかもしれません。

【まちづくりアドバイザーとは】 播磨町では、多様化・複雑化する地域の課題やニーズに、より細かく対応するため、2020年度より「まちづくりアドバイザー」を配置しています。自治会活動やコミュニティ活動、自主的なまちづくり活動について専門的な視点から支援します。

まちづくりアドバイザーがお届けする

まちアド通信

協働推進課住民協働係
☎079-435-2336 4